

2023年度リサーチ・コンソーシアム記念事業 ポスターセッション

発表タイトル	豊中市における孤独・孤立に関する調査研究
<p>要旨等：</p> <p>新型コロナウイルスの流行にともない、孤独・孤立の深刻化が懸念されている。こうした状況を受け、とよなか都市創造研究所では豊中市における孤独・孤立の実態について、特に健康にネガティブな影響を与える「望まない孤独・孤立」に焦点を当てて調査研究を行った。</p> <p>孤独・孤立については国においても重要な課題とされ、令和 3 年(2021 年)には内閣官房に孤独・孤立対策室が設けられ、担当大臣が任命されている。同対策室では孤独・孤立に関する全国規模での実態調査を行っているが、本調査研究においても国の調査で用いられた質問紙に準拠したアンケートを行い、国の調査結果との比較を可能とした。</p> <p>今回のポスターセッションでは、その調査結果から豊中市における人々の孤独感の現状、社会的孤立に関する現状、支援・相談に関する人々の意識について報告する。</p> <p>孤独感については、30 歳代に孤独感が最も広がっているとする国の調査結果に対し、豊中市では 50 歳代の孤独感が強いということが特徴的である。また孤独感に至る出来事としては一人暮らしが多く、心身の健康状態が良くないことや暮らし向きの苦しさとも孤独感が強く関連している。</p> <p>社会的孤立については、同居していない家族・友人とのコミュニケーションについて、男性では 30 歳代、女性では 50 歳代で頻度が少ない。社会参加は男性より女性の方が多く、国と比較しても女性がより多く、男性がより少ない。</p> <p>相談・支援への意識では、孤独感が高い人ほど「我慢できる」「相談が無駄」等の回答が多い。また孤独感を持つ人の約半数が孤独を解消したいとしているが、「わからない」等の回答も多かった。</p> <p>豊中市での調査結果には全国と比べて、都市部の特徴が表れているのではないだろうか。人々の中でのゆるやかなつながりの形成と人との関わりの入口を増やしていくことが支援にもつながっていくと考えられる。</p> <p>PR内容(企業・団体・官公庁の会員のみ)：</p> <p>とよなか都市創造研究所では、市政に関する調査研究事業に加え、人材育成事業として人事課主催のグループ研究の共同実施や大学からのインターンシップ受け入れを行っています。また昨年は、4つの大学からなる合同フィールドワークを受け入れ、政策提言を行っていただきました。</p> <p>担当:とよなか都市創造研究所 研究員 平田 誠一郎</p>	